

最近、小学校入学前にできていたらしいよ、ということでごんなお話を聞きました。

「家庭で何か一つお手伝い（毎日する仕事）を決めてさせるようにする。やり方を教えて、できたら褒める」。役に立っているという思いが自信につながっていくと思います。

「朝は起こされなくても自分で起きられるようになったらしいね」。このためには前夜の生活から考えなくてはいいけません。夜更かしや寝る前に光刺激を受けるテレビゲームなどをやめることも必要です。

睡眠不足が原因で、遅刻をしたり、勉強に集中できなくなったりすることもあります。その結果、小学校で基礎学力をつけることができず、中学校に行っても学習内容が理解できず不登校になりかねません。その後の高校進学、ひいては就職にも影響するという悪循環に陥る現実もあるようです。

でも、やっぱり勉強したいという気持ちがおこった時、親をはじめとした周りの人の支援や、勉強をサポートできるシステム・機関が身近にあればどうでしょう。何度でも勉強し、資格を取り、就職につなげていけるのではないのでしょうか。

「子どもの自立」

平成24年2月22日付高知新聞で、不登校で普通高校には進学できるとは思えなかった少年が、親や周囲のサポートにより進学した事例が紹介されていました。その後、就職の内定ももらったようです。

＊地域若者サポートステーション（愛称「サポステ」）では、働くことに悩みを抱えている15歳～39歳までの若者に対し、キャリアコンサルティングなどによる専門的な相談、コミュニケーション訓練などによるステップアップ、学習支援など、就労や修学に向けた支援を行っています。＊サポステに関するお問い合わせは、高知黒潮若者サポートステーション「南国サテライト」（☎863・5078）まで

このシリーズは、あなたとあなたの周りにいる人の間に温かなつながりが生まれることを願い、人権について考えるきっかけになることを目的としています。

※お問い合わせは
人権啓発広報委員会

（☎880・6569）まで